

05017c3

アスパラガス茎枯病抵抗性スーパー品種で創る新たな持続的生産体系

1 代表機関・研究統括者

国立研究開発法人 農研機構九州沖縄農業研究センター 渡辺 慎一

2 研究期間：令和5年度～令和9年度（5年間）

3 研究目的

国内のアスパラガス露地栽培で深刻な問題となっている茎枯病に対する高い圃場抵抗性を有する種間雑種の新品種「あすたまJ」を活用し、「みどりの食料システム戦略」に貢献する生産体系を構築し、問題解決を図る。

4 研究内容及び実施体制

① 環境負荷低減栽培技術の開発

新品種を用いた多収化・省力化栽培技術、殺菌剤使用を50%以上削減した防除体系を開発し、栽培マニュアルを作成する。

（秋田県農業試験場、長野県野菜花き試験場、香川県農業試験場、長崎県農林技術開発センター、農研機構（九州沖縄農業研究センター・野菜花き研究部門））

② 茎枯病抵抗性品種の普及に向けた需要創出

新品種の有用成分特性を明らかにするとともに、細くやや苦みのある若茎の特徴を生かした青果、冷凍・加工品としての利用法を開発する。

（農研機構（西日本農業研究センター）、（株）果実堂テクノロジー、（株）せき）

③ 流出リスクを考慮した種苗安定供給技術並びに有望系統の開発

新品種の安定採種技術、低コストな雌雄判別技術、高効率な株増殖技術を開発するとともに、さらに有望な系統を作出する。

（（株）サカタのタネ、東北大学大学院生命科学研究科、九州大学大学院農学研究院、農研機構（西日本農業研究センター、九州沖縄農業研究センター）、香川県農業試験場）

5 最終目標

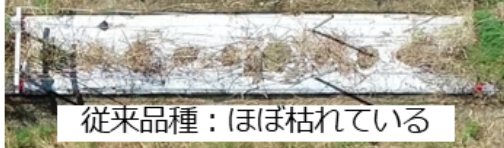
露地春どり栽培において500 kg/10a以上の可販収量と殺菌剤使用量50%以上削減（慣行比）との両立を達成するとともに、細い若茎の需要創出、実用的な種苗供給体系を開発する。

6 期待される効果・貢献

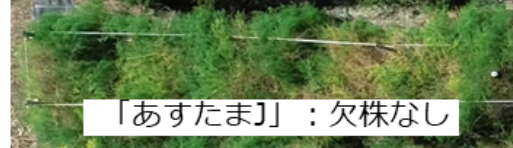
本課題終了10年後までに、新品種が約1,400ha（アスパラガスの現在の日本国内栽培面積の約3割に相当）に普及し、「みどりの食料システム戦略」に資する持続的生産体系の構築に貢献する。

背景・目的

- ・アスパラガス栽培、特に露地栽培において、茎枯病被害により生産量の減少
- ・日本固有種を親に持ち、茎枯病に対する高い圃場抵抗性を有する種間雑種の新品種「あすたま」を活用して問題解決を図る。



従来品種：ほぼ枯れている



「あすたま」：欠株なし

殺菌剤無散布条件下の茎枯病発生圃場での生育(2年株、ドローン撮影画像、久留米市)

研究内容 「みどりの食料システム戦略」に貢献する持続的生産体系の構築

中課題1：環境負荷低減栽培技術の開発

露地春どり栽培（導入想定作型）

殺菌剤50%以上削減
収量500kg/10a以上

- ・病害防除・除草体系
 - ・機械化体系・多収化技術
- 分担して技術開発
- 秋田農試、長野野菜花き試、香川農試、長崎農技セ

長期どり栽培

作型拡大を視野に検討

- ・ハウス慣行栽培
長崎農技セ
- ・枠板式高畝栽培
ハウス 農研機構九沖研
露地 農研機構野花研

種苗の提供

試験材料の提供

中課題3：種苗安定供給技術の開発

遺伝資源を流出させない苗の安定供給

- ・安定採種 + 低コスト + 高効率
雌雄判別 + 株分け増殖
- (株)サカタのタネ、東北大学、農研機構西農研
- ・形質を改善した有望系統育成
九州大学、農研機構九沖研、香川農試

中課題2：普及に向けた需要創出

細くて成分に特徴のある若茎の需要創出

- ・成分・品質特性の評価
農研機構西農研
- ・青果用途の創出
(株)果実堂テクノロジー
- ・業務用途の創出 (株)せき



協力機関：長野県農政部、香川県農業経営課

達成目標

- ・露地春どり栽培：殺菌剤50%以下、収量500kg/10a以上→マニュアル作成
- ・M・L級と同等の販売価格が確保できる「細い若茎」の販売法、商品開発
- ・採算がとれる雌雄判別苗供給体制の構築

期待される効果

- ・約1,400ha(全栽培面積の約3割に相当)に新品種を普及(R19年まで)
- ・年間販売額100億円以上(生産物)、6億円(種苗)の経済効果(R19年時点)
- ・本タイプの茎枯病抵抗性品種が「みどりの食料システム戦略」実現に貢献する露地生産でのスタンダードに!